

罪人？

シリーズ～さよならキリスト教～

2024/7/21

聖書の「罪」が分からない日本人

- 教会に行くと「罪人」呼ばわりされるのがイヤ
- 日本人の考える「罪」とは法律に違反する行為のこと
 - 警察のご厄介になる人はほとんどいない
- 日本の宗教には「罪」の概念がない
 - 神道には「けがれ」はあるが「罪」はない
 - 仏教における「罪」は親殺しなどの非常に重い行為のことで、「煩惱」とは解脱を妨げる欲のこと

罪を強調しすぎたキリスト教会

- 「救い」を信じてもらうために「罪人」であることを認識させる必要があった
 - 福音の中心である十字架を説明するために
- そのために「罪」の概念を歪めてしまった
 - 嘘をつくとか妹をイジメるとか悪口を言うとか、つまらない悪事？を例として使った
- 明治時代のプロテスタント教会は罪に厳しかった
 - ミッションスクールにおける規律の厳しさ
 - 禁酒運動・廃娯運動などの社会運動

聖書が教える本来の「罪」とは

- 神の命令に背くことであり、「悪事」ではない
 - 主なる神が食べてはならないと言われた木の実を食べただけ(盗んだわけではない)
- 行為そのものは何でもないが、決定的で深刻な結果を招いた
 - 神からの命令に背いた報いは「死」であった
- 創造主を知らない日本人には「罪」の意識はなく、「罪」の意味も分からない
 - 「罪」は神からはじまっている

聖書原語が伝える「罪」の意味

•ヘブライ語“ハーター”

- 「的をはずす」(士師記20:16)、「失っている」(ヨブ5:24 / 新改訳)、「つまづく」(箴言19:2 / 同)
- 本来は「的(目標)または道はずす」こと

•ギリシャ語“ハマルティア”

- 「的をはずす」「迷う」「誤る」の意
- 旧約聖書のギリシャ語訳において“ハーター”の訳語として使われた

•「向かうべき方向に向かっていないこと」

- 神と正しく向き合っていない

パウロの見解(ローマ1:20-21)

世界が造られたときから、目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して神を知ることができます。従って、彼らには弁解の余地がありません。なぜなら、神を知りながら、神としてあがめることも感謝することもせず、かえって、むなしい思いにふけり、心が鈍く暗くなったからです。

- 被造物を通して神を知ることができる
 - 神を知りながら神を認めていない(人間の責任)
- 日本人は被造物そのものを崇拝している
 - 「絶対他者」としての神概念がない！

ルカの見解(15章のたとえ話)

- 3つの「失われた」ものたち
 - 百匹のうちの一匹の羊
 - 十枚のうち一枚の銀貨
 - 二人のうち一人の息子
- 彼らは所有者の手元から離れてしまった
 - 悪事を働いたのではない
- 所有者(神)の責任を認めている
 - だから「見つけ出すまで捜し回」り、「見つけるまで念を入れて捜」し、「遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて…走り寄」る

では「罪」をどう理解するか？

- どちらに責任があるにせよ、「罪」の理解（自覚）がなければ救いは分らない
- 罪には「故意」と「過失」がある
 - 故意に殺せば「殺人罪」、誤って殺せば「過失致死罪」
- 創造主を神として崇めなかったことは「故意」ではなく「過失」ではないか？
 - パウロ的には「故意」ルカ的には「過失」
- 知らずに神に背いていたので「**過失背神罪**」
 - 自覚（意識）はなくても罪を犯している

罪は裁かれなければならない

• 罪は命をもって贖うというルール

- 罪の結果(報酬)は死であるので、命をもって償わなければならない(律法)

• このルールを創られた神自ら人間の罪を贖われた

- 独り子の神を人として送り、全人類の「(過失)背神罪」の罰を受けられた
- 罪を犯したのは人間だが、人間を責めていない

• 人間に求めたのはただ「**信じる**」だけ

- 「信仰によって義としてくださる」ローマ3:30

罪は裁かれなければならない

• 罪は命をもって贖うというルール

- 罪の結果(報酬)は死であるので、命をもって償わなければならない(律法)

• このルールを創られた神自ら人間の罪を贖われた

- 独り子の御子を送り、全人類の「(過失)背神罪」の贖いを行った
- 罪を犯したのは人間だが、人間を責めていない

無罪宣告

• 人間に求めたのはただ「信じる」だけ

- 「信仰によって義としてくださる」ローマ3:30

これからの福音の語り方

「わたしたちは自然の美しさや偉大さを崇めているけれど、それを造った方がおられるとは思いませんか？創造主を無視していたことを聖書は「罪」だと言っています。しかし創造主は、わたしたちが知らずに犯していたその罪をわたしたちに問わず、自ら独り子の神を裁くことで精算されました。そのことを信じるだけであなたの罪は赦され、永遠の命が与えられます。信じませんか？」

イエスは言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

ルカ福音書19章9－10節